

団体設立5周年を迎えました

エファジャパン年次報告書 2009

ご挨拶



2009年10月、多くの支援者、関係者のご尽力をいただきながら活動が続けてきたエファジャパンは、団体設立から5周年を迎えました。同時に2009年は、自治労がエファジャパンの支援事業の前身となる「アジア子どもの家」プロジェクトをスタートさせてからちょうど15年目に入る年でもありました。

この間、実に多くの子どもたちが路上生活から保護され、あるいはそれまで充分受けることのできなかった教育の機会を得、文化活動に参加できるようになりました。エファジャパンが事業を引き継いでからの5年間は、3カ国の子ども家を基点としながらも、会員・支援者のみなさまのサポートと、なかでも公共サービスに従事する方々の専門性を重要な背景として、現地の状況やニーズに合わせた支援を地域へ、地方へと広げて参りました。

15年という決して短くない支援の歴史は、事業国内の変化と同時に国際社会の変化の歴史でもあります。経済発展が、反面格差の拡大と貧困層の固定化につながるという正負両方の側面を持ち、また一国の金融危機が全世界の物価高騰をもたらすなどグローバル化が国際関係を大きく変容させている現状は、エファジャパンの支援活動にも当然影響を与え、その都度活動の評価と軌道修正を迫ってきました。私たちは、子どもたちの今を守り未来を拓くという活動の根幹を見据えながら、変化を恐れることなく、より良い方向へ転換する好機ととらえ、これからも活動が続けていかなければなりません。すべての子どもの権利が保障され、すべての子どもが生きる力を存分に発揮できる社会の実現のために、これまでのみなさまのご協力に厚く御礼申し上げますと共に、引き続きのご支援をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人エファジャパン
理事長 イーデス ハンソン

— 目 次 —

ご挨拶	2	ラオス	8～9
2009年度活動ハイライト	3	緊急・人道支援	10
エファジャパンの組織	3	エファグッズ	10
ベトナム	4～5	国内事業	11～12
カンボジア	6～7	会計資料	13～15

2009 年度活動ハイライト

・・・国内事業・・・

・エファジャパン設立5周年記念イベント

映画『花はどこへいった』の上映会と、本映画の監督である坂田雅子氏とエファジャパン理事長イーデス・ハンソンの対談を実施。

・・・海外事業・・・

・ベトナム 障がい児支援調査

2008 年度にハイフォン市から障がい児支援の要請があったことに基づき事前調査を実施。

・ラオス セコン県子ども文化センター設立

外務省の助成金によりセコン県に子ども文化センターを設立。これによりラオス全 17 県に子ども文化センターが設立された。

エファジャパンの組織

支援者

会 員

正会員…195 人
シニア会員…21 人
賛助会員個人…53 人
賛助会員団体…40 団体

総会

(正会員で構成)

- ・エファパートナー
- ・一般寄付者（個人）
- ・一般寄付者（団体）
- ・事業指定寄付者（個人）
(ベトナム・カンボジア・ようちえん募金、他)
- ・事業指定寄付者（団体）
(ベトナム・ラオス・カンボジア・緊急人道支援、他)
- ・ボランティア
(事務局ボランティア・イベントボランティア、他)

理事会

理事長	イーデス・ハンソン
副理事長	植本 真砂子
理事	井ノ口 登
理事	大島 芳雄
理事	岡本 博
理事	玉井 一匡
理事	徳永 秀昭
監事	新開 忠孝

事務局

事務局長	大島 芳雄
海外事業	高山 淳子
国内事業	五十嵐 香織
広報	宮原 朝香
ラオス駐在	中村 いずみ

2010 年 3 月 31 日 時点

ベトナム Viet Nam

ベトナム概況

・支援が必要な背景

開発が進む北部の港町ハイフォン市では、貧富の格差が広がっています。さらに世界的な金融危機は、ハイフォン市に進出している外国企業を直撃し、多くの失業者を生みました。経済発展から取り残された人々、特に困難な状況にある子ども達の権利を守る活動が重視されなければなりません。

・支援の目標、目的

ハイフォン市の児童保護基金をパートナーとして、困難な状況にある子ども達の保護と教育を受ける権利の実現をめざします。また、ハイフォン市全体の児童福祉水準向上に協力します。

ベトナム子どもの家支援事業

■子どもの家概況

ベトナム子どもの家は1995年、自治労の支援により困難な状況にある子ども達の保護施設としてベトナム北部のハイフォン市に設立されました。その後、2004年にエファジャパンが支援を引き継ぎ現在に至っています。2009年度は7名の子どもを保護し、教育の機会を提供しました。また「子どもの家」は、識字教室や課外活動、職業訓練の場にもなっています。

■支援事業



自治労鳥取県本部支援の「子どもの生活状況改善支援事業」は、4月で3年間の支援を終了しました。この事業のおかげで、管理する児童保護基金の財政難や物価上昇に影響を受け

ることなく、子ども達に安定した衣食住や教育環境を提供することができ、困難な家庭の事情を経験してきた子ども達の肉体的・精神的成長に貢献しました。

自治労栃木県本部支援の「子どもの家職員処遇改善支援事業」も順調に進んでいます。この支援により、職員や講師は適切な給与を得ることができ、安定した雇用が可能になりました。その結果、子ども達へのケアや指導に良い影響を与えています。

■ホンバン愛の家支援事業について

エファジャパンが支援していたもうひとつの児童保護施設「ホンバン愛の家」は都市再開発のため2008年度に取り壊され、保護されていた子ども達は家族や親戚のもとに戻ったり、自立（就職）したり、保護が必要な子どもは地区の行政が管理する施設に移されました。

保護児童がアルバイトをして運営資金の一部にしていた状況を見て自治労鳥取県本部が始めた支援により、「愛の家」の子ども達の生活状況は改善しました。しかし3年間の支援の途中で施設がなくなったことにより、3年目の支援金は「ベトナム子どもの家」で生活状況改善に使われることになりました。2009年度は準備期間とし、主に2010年度に使われる予定です。

アジア子どもの家奨学金基金

1999年より自治労栃木県本部が500万円をハイフォン市に委託し、その利子を運用して奨学金事業を開始しました。奨学金基金はハイフォン市児童保護基金が管理し、年に一回市内の困難な状況におかれた子ども達に奨学金を支給しています。

2009年度は、金利上昇のおかげで前年度の70人から大きく増え、107人に支給することができました。奨学生一人当たり26ドルの奨学金と5ドル相当のギフトが授与されました。さらに特に厳しい状況下にある17人の子どもに対し、特別奨学金として合計839ドル

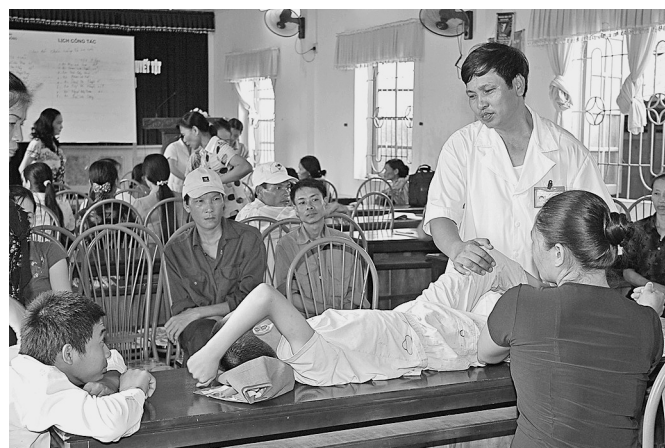
が支給されました。



ハイフォン市児童保護関連職員能力向上研修支援

自治労長野県本部支援の児童福祉に関係する人々（児童福祉施設職員、教員、障がい児をもつ保護者、ボランティアなど）への研修事業は、10月までに5回実施されました。この事業は、2008年3月から3年間の予定で始まりましたが、開始から1年半余りが経過した10月に長野県本部の視察チームがハイフォン市を訪問、中間評価会議を開催しました。開始以来13の研修が実施され、延べ716名が参加したことなどが報告されました。

その後、督促にもかかわらずハイフォン市から事業報告がないことと、研修指導者養成の必要があるため、2010年度の支援を中断することにしました。



ハイフォン市障がい児教室活動支援

前年度にハイフォン市児童保護基金から市内の障がい児への支援を要請されました。要請に基づき、今年度障がい児の状況調査を始めました。調査は、日本国内で障がい児福祉に長年従事された専門家を2名自治労本部から派遣していただき、9月に実施しました。



ハイフォン市の障がい児数は4,300人余りで、市内には視覚障がい児や聴覚障がい児のための特別支援学校や肢体不自由者のためのリハビリテーションセンターがあります。このような施設がある都市はベトナムでは数少なく、比較的整備された都市と言えます。しかし、他の地域と同様に障がい児福祉としての独自の施策体系は

なく、家族に対する最低限の金銭給付と補装具や医療費の補助が中心になっています。サービス量は絶対的に不足しており、さらに市内でも都市部と農村部ではサービス内容・水準に大きな格差があります。

ハイフォン市の障がい児福祉を向上させるには、市レベルでの制度作りやセンター機能の強化と並行して、住民の生活に身近なコミュニティ（町村）レベルでの多様なニーズに対応できる基本的な支援事業を起ち上げ、それをモデル事業として波及させることが必要と考えられます。

調査結果に基づき、来年度には小規模な障がい児支援事業を開始する予定です。



ベトナム事業の今後

都市開発が進み、急激な変貌を遂げているハイフォン市ですが、それにもない児童福祉サービスも大きく向上しているわけではありません。施設支援だけでなく、困難な状況にある子どもに関わる様々な人たちの能力向上研修や障がい児への直接支援を通じて、ハイフォン市全体の児童福祉サービス向上に協力していきます。

カンボジア Cambodia

カンボジア概況 ・支援が必要な背景

ポル・ポト政権の恐怖政治によって社会システムが崩壊したこの国は、人材の養成が急務です。しかしながら、偏った経済成長により貧富の格差が広がり、貧しさ故に教育を受けることができない子ども達が大勢存在します。

・支援の目標、目的

ポル・ポト政権時代の知識階級の虐殺や、その後の内戦、不当な経済制裁による復興の遅れから、教育分野においても就学率や識字率が低く、また教育の質も高いとは言えません。より多くの子ども達に教育の機会を提供し、また教育の質の向上をめざします。

カンボジア子どもの家奨学金事業

■子どもの家概況

1997年に、自治労の支援によって首都プノンペンに国立幼稚園教員養成学校および附属幼稚園として設立されました。養成学校は2年制で、2009年度から1年生が200人、2年生が200人、合計400人が学んでいます。幼稚園には90～100人の幼児が通園しています。カンボジア唯一の幼稚園教員を養成する施設として、国全体の幼児教育と保育に大きく貢献しています。



■奨学金事業

自治労和歌山県本部のご支援により、スラムの幼児30人と地方出身の貧しい訓練生25人に月25ドルの奨学金を支給しました。2009年秋の新学期からは、「ようちえん募金」をもとに、園児30人と訓練生20人に月25ドルの奨学金を支給しています。

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる最も大切な時期です。豊かな感性を養い、就学後の学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を身につけるために、幼児教育は重要です。また幼児教育は、初等教育への就学率の向上、退学率の減少、卒業率の向上に効果があります。スラムの子どもが幼稚園に通園することで、より多くの子どもが小学校に入学し、児童労働から解放され、保護者が安心して仕事に専念できる環境をつくれます。幼稚園の給食は、スラムの子どもには大切な栄養源でもあります。

地方出身の貧しい訓練生にとって、大都市プノンペ

ンで学ぶことは、寮生活とはいえ容易ではありません。実習で作成する教材



の材料費や、教育実習で他の幼稚園に行くための交通費は大きな負担になっています。食費を節約して授業に出席する者もいます。奨学金は、生活費の補助になり、経済的理由から中途退学することを防ぎます。

■保育士による技術指導ボランティア

日本の公立保育園で保育士として働いていた荒川智子氏は、退職後毎年数カ月間、国立幼稚園教員養成学校で保育指導のボランティアをしています。旅費も教材費も全て自己負担していたため、今後も活動が継続できるよう2009年度から活動費の一部を助成することにしました。校長の信頼も厚く、訓練生からも慕われている荒川氏の活動は養成学校の教育内容の向上に貢献しています。



スラム内ノンフォーマル教育（寺子屋教室）運営支援

■スラム概況

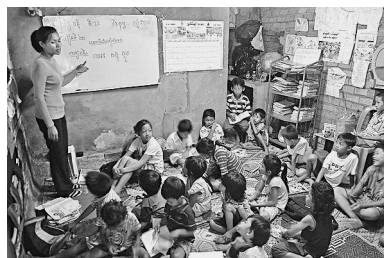
2005年で700カ所と言われたプノンペン市内のスラム。人々は日々の生活に追われ、子どもに教育を受けさせる余裕もなく、子ども達も働かなければなりません。また、急速な都市化が進むプノンペンの街は、スラムの人々を更に周辺へと追いやっています。貧困、児童労働、犯罪、強制移住など、様々な問題が存在します。

■SCADP

カンボジアのNGO、SCADP（Street Children Assistance and Development Programme「ストリートチルドレンの支援と育成事業」）は、1992年に創設者のイム・ソカリィ女史がプノンペンでひとりのストリートチルドレンと出会い、その子にノートと鉛筆をあげて読み書きを教え始めたことから、活動が始まりました。その後、1998年に内務省から市民団体としての正式な認可を受けました。教育事業を中心に、職業訓練や伝統文化の保護などの活動を、プノンペン市と地方5県で実施しています。

■寺子屋教室

SCADPと連携して、プノンペン市内のスラム3カ所で寺子屋教室を開設し、6歳から15歳くらいまでの子どもが合計210人登録されました。教室になる部屋を借り、先生を雇い、子ども達には教材、文具、カバン、制服を支給しました。授業は午前と午後の2部制で、読み書き、計算、健全な社会生活を送るための知識などを教えます。前年度は、年度途中に1カ所のスラムが撤去され、郊外の別の寺子屋を支援することになりました。また1年契約の先生達も進学や転職で辞めてしまいました。この様な事態を避けるため、2年目の支援では新規



に教室を開設するのではなく、以前からあった教室3カ所を選び、先生の人件費も3年間継続支援することを約束しました。生徒は定期的に学力テストを受け、その結果で公立小学校へ編入可能かどうか判定されます。最終的に48人(23%)が公立小学校に編入しました。

2009年度には、寺子屋教室の先生への技術指導を始めました。先生達は教員としての専門的な訓練を受けたわけではなく、SCADPのボランティアの中から高校卒業の資格をもつ人が採用されています。生徒の年齢が様々であるにもかかわらず、教科書に依存した画一的な授業が行われていたため、日本の小学校教員による現場研修を実施しました。研修後、子ども達はより積極的に授業に参加するようになりました。

寺子屋教室の運営には、連合「愛のカンパ」の助成をいただいています。



公立幼稚園保育研修及び保育教材普及支援事業

自治労関東甲地区連絡協議会と共に、日本のNGO「幼い難民を考える会」が地方の5県で実施している、公立幼稚園の保育者研修と保育教材普及事業に資金を提供し

ました。

エファジャパンからの資金提供は、2009年度で終了しました。

カンボジア事業の今後

子どもの家奨学金事業は、広く募金を募り、園児と訓練生への奨学金を継続します。また、幼児教育の質を向上させるため、元保育士の荒川智子氏の活動を応援します。

子どもの権利である教育を受ける機会を提供するため、スラムにおけるノンフォーマル教育をカンボジアのNGO、SCADPと共に推進します。また、SCADPの人材養成を中心に組織強化を支援します。

ラオス Laos

ラオス概況

・支援が必要な背景

ラオスでは公共図書館、学校図書室ともに少なく、図書館や図書室の設立及び運営支援が政府によってなされないことから今後も支援が必要とされます。また、子どもが自民族の伝統文化・芸術やスポーツ、環境や衛生、子どもの権利などを学ぶ場所として、子ども文化センター（CCC）の役割は重要です。

・支援の目標、目的

ラオスでは稀少な近代的図書館であるヴィエンチャン市立図書館・多目的ホールの活性化を図り、図書室のない村でのコミュニティ図書館・学校図書室支援を継続し、より多くの子ども達が本を通じて様々な情報を得、心豊かに育つように支援します。また、財政難な地方 CCC の支援を継続することで子どもの情操教育の場を提供します

図書館事業

■ヴィエンチャン市立図書館・多目的ホール支援

2006年に、ラオスのモデル図書館となるべく自治労中央本部及び3県本部（北海道・東京都・愛知県）のご支援によって建てられたヴィエンチャン市立図書館・多目的ホール（石田記念館）は、3年を経過し運営4年目となりました。

市立図書館は、月曜～金曜の9時～18時、土曜の9時～16時に開館しており、2009年の利用者はのべ54,105人、貸出人数はのべ4,996人、貸出冊数はのべ10,010冊でした。エファジャパンは、月々の運営費、職員の超過勤務手当・通勤手当、契約職員1人の給与、蔵書、旧館の改修、ホール・図書館備品、出張活動（バイクによる移動図書館活動）、ホールでの行事などの支援を行っています。

2009年度は図書館運営費を自治労東海地区連絡協議会より支援いただきました。図書購入費や平日の延長時間（17:00～18:00）や土日に開館する経費、子どものための活動費などに充てられました。また6月には自治労兵庫県本部のご支援により、図書館敷地内に植民地時代からあった建物を改修し、図書館事務所として使用を開始しました。整理・分類する前の蔵書を保管する書庫や、本の修繕などを行う作業スペースも十分とれるため、効率よく業務を行えるようになりました。



2010年2月、ヴィエンチャンにおいて2007年から2009年までの3年間の支援に関する評価会議が開かれました。日本からは、自治労本部、北海道・東京都・愛知県・三重県（東海地連代表）・滋賀県・兵庫県の各県本部およびエファジャパンの代表が参加しました。施

設や設備面ではほぼ支援は完了しているものの、人材育成や自立に向けた運営体制づくりが今後の課題であることが確認されました。

■コミュニティ図書館支援

ラオス図書館協会との連携で、日本の個人グループからの支援によりルアンパバン県ナンバク郡に、自治労静岡県本部の資金提供によりヴィエンチャン特別市ノンセンチャン村にコミュニティ図書館を建設しました。その他、学校図書室15カ所、子ども文化センター2カ所に図書や本棚を寄贈しました。



地方子ども文化センター支援事業

■子ども文化センター概況

1996年に「アジア子どもの家プロジェクト」の1つとして、首都ヴィエンチャンに設立された子ども文化センター（CCC）は、その後各県に拡大してきました。その重要性を認識したラオス政府は2010年までに全17県にCCCを設立するという目標を立て、2009年末までにラオス17県中16県にまで拡がりました。しかし、財政難で子ども達に魅力的な活動が出来ていないCCCが多くあります。

■支援事業

2009年11月末より日本政府の助成金を受けて設立支援を行っているセコン県CCCが2010年1月に完成し、これで17県全県にCCCが設立されました。しかし県政府の財政だけで活動を続けるのは厳しく、今後も講師やジュニアリーダー（JL：先生の補佐をする年長の子どもたち）の研修や交流会、活動用具・出張活動（CCCから遠く離れた地域に住む子ども達にも同様の活動に参加する機会を与える）の支援、郡レベルへのCCCの拡大支援が必要とされます。

カムワン県、シェンクワン県のCCCに対する支援も、自治労大分県本部からの資金提供をいただき2009年度も実施しました。

カムワン県 CCC

図書室の蔵書、JL研修、出張活動、環境美化活動、活動用具などを支援しました。

シェンクワン県 CCC

ルアンパバン県CCCでの交流やJL研修、出張活動、絵画遠足、環境美化活動、活動用具、郡CCC担当者や県CCC講師の研修などを支援しました。

セコン県 CCC

日本政府の「日本NGO連携無償資金協力」を得て、2009年度に設立しました。講師やJLの研修、活動用具や対象村での出張活動を支援しています。1月に改築工事が終わった綺麗な建物で子ども達は図書室の利用、伝統舞踊・ゲーム・スポーツ・伝統楽器など様々な教室を楽しんでいます。

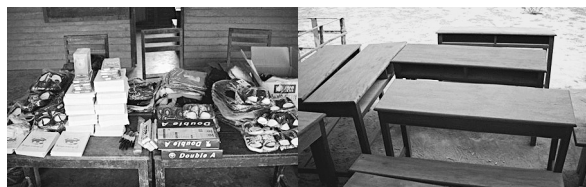


2010年3月には自治労組合員である葛飾区の児童会館職員佐々木泰秀氏にご協力いただき、4日間に渡る職員・JL研修を実施しました。佐々木氏には活動計

画の立案のノウハウ、体を使ったコミュニケーション、リサイクル工作についての講義・実習を担当いただき、特にラオスで身の回りにある材料を使って簡単にできる工作など、研修参加者がすぐに実践できる講義が好評でした。研修後の活動でリサイクル工作を指導したJLは、子ども達がとても楽しそうに参加するのを見て研修の効果を実感したと話しています。

台風被災者支援

2009年9月末の大型台風ケサナは、ラオス南部に大きな被害をもたらしました。株式会社フェリシモの「地球村の基金」と自治労中央本部のご支援を頂いて、被災した学童への制服・文具の支給、学校への机・椅子の供与、校舎修繕の支援を実施しました。



ラオス事業の今後

図書館事業では、ヴィエンチャン市立図書館の職員能力強化、蔵書の拡充など、ラオスのモデル図書館となるべく支援を継続します、さらに図書館や図書室のない村でのニーズを調査し、小規模でも本を読めるスペースをつくる必要があります。

CCC事業では、子ども達が環境・衛生・不発弾被害防止など様々な課題に包括的に取り組んでいけるように啓発し、財政難な県・郡レベルのCCCの講師・JLの研修をサポートしていきます。

緊急・人道支援

エファジャパンでは、自然災害や紛争が起きた際に緊急人道支援を行います。2009年度は、ハイチで起きた大地震の被災者支援を実施しました。

ハイチ大地震被災者支援事業

2010年1月12日、ハイチでマグネチュード7.0の地震が発生し、350万人以上の人々が被災しました。ハイチは人口の約55%が貧困層という最貧国で、2008年にもハリケーンで4度の被災を経験したことや、今回の地震が首都を直撃したことなどから、史上最も困難な人道危機と言われています。

エファジャパンは、緊急支援のパートナーとして、アイルランドの民間国際協力団体 Concern Worldwide（コンサーンワールドワイド）を選びました。主な理由は、Concern が1994年以来ハイチで母子保健などの事業を展開しており、活動拠点と多くのハイチ人スタッフを雇用していることと、エファジャパンの事務局長がバングラデシュで2年、ソマリアで1年3カ月、同団体で働いた経験があり、かつての同僚が現場で救援活動の指揮をとっていることです。

Concern が実施した主な救援活動の内容は以下の通りです。

- 1) 飲料水の提供
- 2) テント、プラスチックシート、毛布、日用品の配布
- 3) 栄養不良乳児への栄養食の配給
- 4) 清掃活動への現金支給

エファジャパンは、3月末に救援カンパ金 1,700,054 円を送金しました。



エファグッズ販売

エファグッズは「ベトナム子どもの家」で実施している職業訓練教室で製作されています。「子どもの家」の保護児童だけでなく、近隣に住む貧困層の子ども達にも開かれており、多くの子ども達が指導を受けながら刺繍製品を作っています。エファグッズは、エファジャパン



が「子どもの家」から買い取ることで、材料費・運搬費・事務費を除く一部が製作に関わった子どもへの報酬に、残りが「子どもの家」の運営基金に組み入れられる仕組みに

なっています。商品によってその割合は異なりますが、400 円の巾着の場合、250 円が材料費・運搬費・事務費に、縫製・刺繍・アイロンなど役割に応じて製作に関わった子どもへ 100 円、運営基金に 50 円、となります。子どもたちにとっては大人が見守る安全な場所で、あるいは自分の家で、お小遣い程度ですが収入を得ることができる機会にもなっており、「子どもの家」にとっては自立運営のための取り組みでもあります。

エファグッズはエファジャパンホームページ上で商品を紹介しているほか、カタログを制作し、会員、その他支援者・関係者のみなさまへ配布しています。

【収支】	収入	エファグッズ	1,159,254	支出	仕入れ、輸送経費、雑費等	3,206,015
		自治労布袋	3,171,150			
	収入合計		4,330,404	支出合計		3,206,015
			利益	1,124,389		

国内事業

エファジャパン設立 5 周年記念イベント

映画『花はどこへいった』上映会&対談（11/8・東京）



エファジャパン設立5周年を記念し、11月8日に女性と仕事の未来館（東京都港区）で、映画『花はどこへいった』の上映会、およびエファジャパン理事長イデス・ハンソンと、本映画の監督である坂田雅子さんの対談イベントを開催しました。約70名の方にご来場いただき、好評のうちに終了することができました。

『花はどこへいった』はベトナム戦争従軍後フォトジャーナリストとして活躍した夫の死に、枯葉剤の影

響を示唆された坂田雅子監督が、夫への追悼と枯葉剤への疑問からベトナムを訪れ撮影したドキュメンタリー映画。上映後の対談では、映画製作の経緯や、ベトナムでの撮影時に会った障がい児とその家族について坂田監督にお話しいただくとともに、枯葉剤が今なお人間や環境にもたらす影響、そして子ども達の未来のため、平和のために私達にできることを二人に語っていただきました。

<来場者の感想>

- ・「ベトナム戦争について学校の授業で習った程度の知識しかなかったが、戦争の傷跡が今なお続いていることを実感した。」
- ・「この映画は、ベトナムの現実、当事者の声、記録であり、大変心を揺さぶられた。今後さらに上映の機会が増え、一人でも多くの人に観てもらいたいと思う。」
- ・「衝撃的で胸が痛くなるような映像もあったが、障がいを持つ子どもを愛する家族の強さ、温かさに感動した。対談を聞いて自分も何かをしていきたいと思った。」

学習会

「子どもへの虐待、その予防策を考える」

（3/6・横浜、3/29・東京）

子どもすこやかサポートネット代表理事の田沢茂之さんを講師に招き、子どもに対する虐待をテーマとした学習会を自治労神奈川本部保育部会、および自治労西東京市職員労働組合で実施しました。

講師の田沢さんからは、子ども虐待の現状や、子どもへの身体的虐待を防止するための体罰の法的禁止の必要性、および国内外の動向についてご報告いただき、最後に具体的施策の提案や私たちにできることをお話いただきました。

自治労神奈川本部保育部会の学習会には、保育士や社会福祉関係者など日々保育の現場に携わっている組合員約100名が参加されました。また、西東京市では子

どもの権利に関する条例の策定に向け検討を進めているとのことで、西東京市職員労働組合の学習会では講師も交えて活発な意見交換が行なわれました。



<参加者の感想>

- ・「子どもの成長にとって何が理想でどうあるべきかを考える良いきっかけとなった。」
- ・「子どもの権利条例を作り、伝えていくことの大切さを改めて感じた。」

その他イベント・集会

- ・メーデー中央大会（4/29・東京）
- ・NTT 労働組合児童労働撲滅キャンペーンイベント（4/4・千葉、5/30・横浜）
- ・自治労第81回定期大会（8/25～28・熊本）

- ・自治労東京都本部定期大会（10/31・東京）
- ・三菱商事株式会社クリスマス・チャリティバザー（12/14・東京） 他

国内事業

書き損じハガキ回収

2009 年度、エファジャパンでは各種広報媒体で書き損じハガキの寄付を呼びかけるほか、ハガキ回収箱を作成し、職場等への設置にご協力いただける組合・団体に配布しました。おかげさまで大変多くのおみなさまのご協力をいただき、2009 年度の書き損じハガキ・未使用切手回収は、手数料差し引き後の切手額で 436,782 円集まりました。このうち 80 円切手 100 枚シート 37 枚 (3,700 枚) を現金化し、242,400 円の収入となりました。

この他、ハガキと一緒に呼びかけた未使用テレホンカード約 300 枚（うち 100 枚を 2009 年度に現金化し 36,000 円の収入）と、図書カード、QUO カード等の寄付もいただきました。



広報

■広報誌『えんばわ』（季刊：第 13 号～第 16 号）

【特集記事】

第 13 号「日本からラオスへ伝える図書館の今」

第 14 号「ベトナム子どもの家の 15 年」

第 15 号「原点に戻って活動 保育指導ボランティア」（カンボジア）

第 16 号「対談：坂田雅子×イーデス・ハンソン」

■エファ通信（メールマガジン）

原則月 1 回発行。エファジャパン会員ご希望の方に配信。バックナンバーはエファジャパン HP でも閲覧できます。

■エファジャパンホームページ

活動の最新情報をお知らせするほか、海外事業の詳しい情報、スタッフ日記などを掲載しています。

■エファジャパン団体パンフレット

団体パンフレットのデザインをリニューアルしました。現在のパンフレットの在庫が終了次第、新しいパンフレットの配布を開始します。

■自治労通信での記事・広告掲載

自治労中央本部で発行されている「自治労通信」誌上において、エファジャパンの活動に関する記事や裏表紙広告欄への広告掲載などにご協力いただきました。

■自治労プレスリリース

自治労各県本部へ、エファの最近の活動からピックアップした話題をプレスリリースとして配信を開始しました。リリースの内容や添付の写真は、各県本部や単位組合で機関紙や Web サイトへ自由に転載していただけます。

ボランティア

■エファボラ

事務局ボランティアを一般募集し、毎月（原則）最終木曜日のエファボランティアデーに活動しています。発送物の封入やエファグッズの在庫確認、書き損じハガキの仕分け・カウントなどを、毎月平均 6 人前後のおみなさんにお手伝いいただいています。

■イベントボランティア

2009 年度は、4 月のメーデー、11 月のエファジャ

パン 5 周年記念イベントでボランティアのご協力をいただきました。学生の方から社会人の方まで、物販、受付、案内などで活躍していただきました。

■デザインボランティア

2009 年度より、エファジャパンの広報物のデザインをボランティアの鳴海朝子さんに引き受けていただけることになりました。書き損じハガキチラシのデザインなどにご協力いただいています。

収支計算書

2009年4月1日から2010年3月31日まで

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
I 経常収入の部			
1 会費収入	4,330,000	4,536,000	△ 206,000
正会員 (個人及び団体)	2,040,000	2,052,000	△ 12,000
シニア会員 (個人)	90,000	114,000	△ 24,000
賛助会員 (個人)	450,000	420,000	30,000
賛助会員 (団体)	1,750,000	1,950,000	△ 200,000
2 収益事業費	4,040,000	4,505,414	△ 465,414
エファグッズ	900,000	1,159,254	△ 259,254
ベトナム布袋	2,900,000	3,171,150	△ 271,150
その他	240,000	175,010	64,990
3 寄付 (エファパートナー)	2,450,000	2,065,000	385,000
パートナー (個人)	450,000	525,000	△ 75,000
パートナー (団体)	2,000,000	1,540,000	460,000
4 補助金・助成金収入	31,800,000	35,221,356	△ 3,421,356
自治労中央本部	15,000,000	15,000,000	0
自治労共済	15,000,000	15,000,000	0
その他	1,800,000	5,221,356	△ 3,421,356
5 寄付金収入	4,500,000	17,833,308	△ 13,333,308
目的指定寄付	4,000,000	16,194,678	△ 12,194,678
その他 (一般寄付・募金)	500,000	1,638,630	△ 1,138,630
6 雑収入	0	42,006	△ 42,006
7 為替差益	0	129,747	△ 129,747
経常収入合計	47,120,000	64,332,831	△ 17,212,831
II 経常支出の部			
1 海外事業費	21,805,279	32,396,835	△ 10,591,556
①ベトナム事業費	6,530,000	6,474,107	55,893
仕入れ	2,350,000	3,050,478	△ 700,478
グッズその他	200,000	155,537	44,463
その他	3,980,000	3,268,092	711,908
②カンボジア事業費	4,900,000	8,236,890	△ 3,336,890
③ラオス事業費	9,500,000	15,847,270	△ 6,347,270
④人道支援	875,279	1,838,568	△ 963,289
2 国内事業費	8,560,000	9,036,188	△ 476,188
①国内事業推進費	5,130,000	6,200,323	△ 1,070,323
収益事業費	1,130,000	708,393	421,607
その他	4,000,000	5,491,930	△ 1,491,930
②広報事業費	3,430,000	2,835,865	594,135
3 管理費	16,680,000	15,356,244	1,323,756
家賃	3,300,000	3,233,496	66,504
事務人件費	7,120,000	6,464,976	655,024
光熱費	160,000	124,561	35,439
通信費	400,000	349,624	50,376
消耗品費	360,000	335,329	24,671
旅費交通費	520,000	499,450	20,550
理事会運営費	200,000	161,840	38,160
法定福利費	1,800,000	1,741,844	58,156
印刷費	350,000	196,560	153,440
機器リース代	560,000	547,044	12,956
福利厚生費	100,000	42,362	57,638
支払手数料	140,000	83,028	56,972
租税公課	10,000	5,720	4,280
研修費	40,000	1,000	39,000
新聞図書費	20,000	17,550	2,450
業務委託費	1,600,000	1,525,400	74,600
雑費	0	26,460	△ 26,460
4 為替差損	0	11,139	△ 11,139
5 法人税等	70,000	70,000	0
経常支出合計	47,115,279	56,870,406	△ 9,755,127
経常収支差額	4,721	7,462,425	△ 7,457,704
III その他資金収入			
その他資金収入合計	0	0	0
IV その他資金支出			
その他資金支出合計	0	0	0
当期収支差額	4,721	7,462,425	△ 7,457,704
前期繰越収支差額	0	18,668,507	△ 18,668,507
次期繰越収支差額	4,721	26,130,932	△ 26,126,211

財産目録

2010年3月31日現在

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	30,096,457		
現金 現金手許有高	534,346		
普通預金	16,999,887		
中央労働金庫市谷支店	685,101		
東京三菱銀行市ヶ谷支店	8,467,529		
ラオス外貨預金	5,759,820		
東京三菱	2,087,437		
郵便振替口座	12,562,224		
未収会費	372,000		
棚卸資産	129,084		
前払金	3,600		
立替金	576,222		
未収金	21,839		
前払費用	269,458		
仮払金	1,267,431		
流動資産合計		32,736,091	
2 固定資産			
その他の固定資産			
保証金	2,600,000		
その他の固定資産合計	2,600,000		
固定資産合計		2,600,000	
資産合計			35,336,091
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	561,580		
前受金	56,000		
預り金	5,917,579		
源泉税	49,340		
雇用保険	39,319		
住民税	69,100		
仮受金	5,759,820		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		6,605,159	
負債合計			6,605,159
正味財産			28,730,932

貸借対照表

2010年3月31日現在

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	30,096,457		
現金	297,023		
小口現金	237,323		
普通預金	16,999,887		
郵便振替口座	12,562,224		
未収会費	372,000		
棚卸資産	129,084		
前払金	3,600		
立替金	576,222		
未収金	21,839		
前払費用	269,458		
仮払金	1,267,431		
流動資産合計		32,736,091	
2 固定資産			
その他の固定資産			
保証金	2,600,000		
その他の固定資産合計	2,600,000		
固定資産合計		2,600,000	
資産合計			35,336,091
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	561,580		
前受金	56,000		
預り金	157,759		
仮受金	5,759,820		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		6,605,159	
負債合計			6,605,159
III 正味財産の部			
正味財産			28,730,932
(うち当期正味財産減少額)			(7,462,425)
負債及び正味財産合計			35,336,091

特定非営利活動法人エファジャパン 2009 年度年次報告書

発行 特定非営利活動法人エファジャパン 2010年7月26日

〒102-0081 東京都千代田区四番町4 日本染色会館3階

電話 03-3263-0337 FAX 03-3263-0338 E-mail info@efa-japan.org

ホームページ <http://www.efa-japan.org>



すべての人々に、^{ちから}力を。